

指導と評価の一体化を目指して
文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 小倉 勝登

1 学習評価の意義

学習評価は、学校における教育活動に関し、子供たちの学習状況を評価するものである。「子供たちにどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教員が指導の改善を図るとともに、子供たち自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするためには、この学習評価の在り方が極めて重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性を持った形で改善を進めることが求められることが重要である。

つまり、学習評価には、子どもの学習状況を的確に捉えて評価することにより、「子どもたちの学習改善」につながるようにする側面と「教師の指導改善」につながるようにする側面という2つの意義があることがわかる。

さらに、2017 学習指導要領総則第1章第3の2「学習評価の充実」の(1)では、「児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。」(一部抜粋・下線筆者)と示されている。

評価に当たっては、いわゆる評価のための評価に終わることなく、教師が児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、児童が学習したことの意義や価値を実感できるようにすることで、自分自身の目標や課題をもって学習を進めていけるように、評価を行うことが大切なのである。

中央教育審議会教育課程部会(報告)(2019)では、これまでの学習評価について指摘されている課題を5つに整理して示すとともに、学習評価を真に意味のあるものとするため、その在り方を3点で示している。

- ①児童生徒の学習改善につながるものとする。
- ②教師の指導改善につながるものとする。
- ③これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと。

ここにも、学習評価は、「児童の学習改善」につながる側面と「教師の指導改善」につながる側面が重要であることがまとめられている。

2 評価したことを指導に生かすことが基本

学習評価は児童の学習状況を把握して指導に生かすことを基本としている。一方で、法定の表簿である児童指導要録における「評定(3, 2, 1)」を定めるための評価資料を集める趣旨から、ABCの評価を定めて記録する必要もある。すなわち、学習評価には「評価したことを指導に生かす」と「評価したことを記録に残す」という二つの側面がある。

「評価したことを指導に生かす」ことは、毎時間行う。児童一人一人の学習状況を把握して、指導に生かすためには、評価規準に照らして、「どのような評価資料から、どのような具体的な姿を捉えるのか」という評価方法を明確にしておく必要がある。学習状況を具体的に捉えるために「～(評価資料)から、『～しているか』を評価する」という記述でまとめるとよい。『～しているか』という姿をあらかじめ具体的に想定しておくことで、「努力を要する」すなわち「～していない」と評価せざるを得ない児童への指導の手立てが明確になるからである。具体的な評価規準の例を示すと次のようになる。

【具体的な評価規準の例】

【知識・技能】ノートや見学カードへの記述内容から「必要な情報を集め、読み取り、燃えるごみを処理する仕組みなどについて理解しているか」を評価する。

「評価したことを指導に生かす」ことは、基本的に毎時間行うが、その中で特に指導した結果としての評価資料を全ての児童から収集する場面を重点的に設定し、「評価したことを記録に残す」場面とする。

「評価したことを記録に残す」ことは、「指導と評価の一体化」の観点から、単元の目標に沿って指導した結果が表れる場面が考えられる。そのため、評価資料を集めてABCを定める場面は、単元の後半に多くなると考えることができる。ただし、「評価資料は必ず単元後半で集め、単元前半では集めない」などと固定的には考えず、柔軟に計画することが大切である。単元の学習全体を見据えて、三つの資質・能力を意図的・計画的に養うよう指導し、指導した結果を評価資料とすることを基本とし、単元の前半において評価資料を集める場合には、目標に沿って丁寧に指導した上で、その結果を評価資料とする必要がある。

また、学習評価を無理なく、効果的に進めていくためにも「学習評価場面の精選」が求められる。「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」では、「毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行う」と示されている。基本的に1時間1観点で学習状況を捉えるようにし、単元全体を通して全ての観点で学習状況を捉えられるように構成することが考えられる。

日々の授業の中で児童の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であり、記録を集めることに終始して、必要な指導や支援を行わないまま一方的に評価をするようなことがないようにしなければならない。

【観点別評価の総括】

	評価規準 [] 内数字は時数を表す	Y児	U児	M児
知識・技能	【知-①】 [3/4]			
	【知-①】 [5]			
	【知-②】 [9]	A	B	B
	単元の総括的な評価	A	B	B
思考・判断・表現	【思-①】 [1]			
	【思-①】 [7]			
	【思-②】 [8]	A	B	B
	【思-②】 [10]			
	単元の総括的な評価	A	B	B
主体的に学習に取り組む態度	【態-①】 [2]			
	【態-①】 [6]	A	B	C
	【態-②】 [10]	A	A	B
	単元の総括的な評価	A	B	B

社会科に限らず、各教科の評価については、学習状況を分析的に捉える観点別学習状況の評価と、これらを総括的に捉える評定の両方について、学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施するものとされている。

しかし、学習指導を通じて、観点別学習状況の評価や評定には示しきれない子どもたち一人一人の良い点や可能性、さらには進歩が見えてくる。子どもたちが意欲的に学習を進め、学びに向かう力を育てていくうえでも、大切に評価したい点である。これらについては、観点別評価とは別に、個人内評価として実施していくことを継続していきたい。

単元を通した授業デザインでまず行うことは、学習指導要領を基に単元の目標を設定することである。目標の表し方は授業者が決めることなので、絶対にこのように設定しなければならない、というものではないが、目標は総括的に示すことが望ましい。目標を設定することは、本単元を通して、社会的事象の見方・考え方を働かせ、問題解決的な学習を通して、目標の実現に向かうことになる。次に行うことは、目標の実現に向けて単元を通して見取る子供たちの姿を分析的に設定することである。つまり、これが単元の評価規準ということになる。学びの入り口である単元の目標と学びを見取る出口である単元の評価規準を設定することで、単元を通した大まかな授業デザインをしたことになる。

具体的には、以下の手順が考えられる。

- 3つの評価の観点を盛り込んだ指導と評価の計画を作成する

- ・指導と評価の計画に、評価規準の設定する際は、きまりがあるわけではない。
- ・評価ありきで、授業の画一化につながることは求めている。
- ・授業者の単元構想に基づいて評価規準は設定されるものである。
- ・その時間のねらいの実現にむけて、どのような資料でどのような活動をして、どのような観点で学習状況を見取るのかを関連付けて設定する。

- 6 -

目標と評価規準の整合性を確かめ、設定した単元の評価規準が指導と評価の計画に位置付いていることをきちんと確かめ、その上で授業実践に取り組んでいただきたい

【単元の目標】

廃棄物を処理する事業について、処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業の果たす役割を考え、表現することを通して、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に地域社会の一員として自分たちが協力できることを考えようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

目標と評価規準をセットで描く⇒単元デザインはできる

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などについて見学・調査したり地図などの資料などで調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、廃棄物の処理のための事業の様子を理解している。	① 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見いだし、廃棄物の処理のための事業の様子について考え表現している。	① 廃棄物を処理する事業について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
② 調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。	② 廃棄物を処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良い生活環境を関連付けて廃棄物の処理のための事業の果たす役割を考えたり、学習したことを基に、ごみの減らすために、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。	② 学習したことを基にごみの減らすために、自分たちが協力できることを考えようとしている。

それぞれの実現状況を把握できる段階で行う

ねらい	主な学習活動	観点
① 学習問題をつくることができるようにする	○ごみのゆくえを話し合い、学習問題を作る	思-①
② 学習計画を立てることができる	○解決に向けて予想する、学習計画を立てる	態-①
③④ 調べることができるようにする	○清掃工場の見学をして調べる	知-①
⑤ 調べることができるようにする	○各種資料で調べる	知-①
⑥ まとめ、見直すことができるようにする	○まとめる。さらに調べることを見出す	態-①
⑦ 考えることができるようにする	○計画的な取り組みについて考える	思-①
⑧ 考え表現することができるようにする	○関連付け、役割を考え表現する	思-②
⑨ 図や文にまとめることができるようにする	○ごみ処理の仕組み等を図や文にまとめる	知-②
⑩ 考え、協力できることを考えようとする	○自分のできることを考えまとめる	思-② 態-②

単元を通して、全観点の学習状況を見取る